2019年度　あさひ苑　事業報告

今年度の特記事項

- 経営的には、80(事業収入8億)50(人件費5億)を指標に健全な収支バランスを目指し、概ね財務目標は達成できた。退所者34名と昨年(退所者35名)に続き入退の多い年度にも拘わらず、先行入所準備の対応強化および入院延べ日数の減少により特養が利用実績95.2%(前年92.6%)と目標の95%の達成したこと、認知症対応型通所介護が83.0%(前年76.5%)の健闘したことが収入の支えとなった
- 正職員の退職は調理員看護師各1名と2名の介護員の転職(年度末)があったが、比較的安定した体制が保てた。
- 2月からは新型コロナウイルス対策の徹底を図った。利用者、職員等感染者はないが、府中市主導の介護予防事業は、中止し、通所等在宅サービスは利用者への自粛を促し事業を縮小した。

1 利用者満足の獲得

・「快便」ーメンリッケのテーナマイスター制度によるスキルアップを計った
・サービス向上に向けた職員意見交換会を2回開催した
　6月18日　テーマ:在宅～入所の利用者について　　10月22日　テーマ:職員同士知る/仲間であること
・ご家族との連携-コミュニケーション拡大による個別援助プランの充実　ー　次年度継続課題
・家族懇談会は具体的テーマで開催（第2回“わんわんパーティー”ボラとして家族が参加、第3回は中止）
・利用者ニーズの把握（通所サービス興味・関心シートの活用と利用者ヒアリングの実施）
・インフルエンザ、ノロ等感染症の発生はなかったが、2月下旬から新型コロナ感染予防の取り組みを強化した

2 地域支援の定着　　地域における高齢者支援拠点の役割を担う

・家族支援の視点から府中社協などと連携して地域社会資源を探った
・地域・行政・医療・介護事業所と困難事例の対応や定期的な意見交換を行って連携強化を図った
・食事サービスの拡充（通所介護夕食持ち帰りサービスの開始）⇒5月から実施　年間で2940食を提供
・地域・家族との連携強化（特養利用者との行事連携）
　8月：納涼祭　　12月：餅つき　　3月：災害対策・桜見（新型コロナ感染予防のため中止）
・町会等との更なる連携を図った。　お祭りや防災訓練等双方の行事に参加し協力しあうことができた

3 職員力・組織力の強化

・新システム（ケアカルテ)を無事導入し定着につなげた。業務効率による超過勤務の削減までには至っていない
・新システムと他機器連動によるサービスの向上　⇒服やっくんは検討すすまず、次年度へ持ち越しとした
　ナースコール・コールマットは法人他施設と連携し業者選定に入っている
・職種別職務要件は職種間に差はあるが、年度内にほぼ完成することができた
・正職員×非常勤職員の役割の明確化（時間別分担整理）
　⇒できていない。　第一段階として、法人モデル配置をベースにあさひの実態分析を実施している
・リスク管理の整備－各種マニュアルとの見直し　⇒現状ある各種マニュアルをファイル化し共有した
・法人連動での働きやすい職場づくり　⇒　決まった制度は速やかに伝達し、全職員ノートパソコン共有に努めた
・離職者ゼロを目標とする　⇒正職員4名退職(訓練士・食事・介護2)　いずれも自己都合による転職希望

4 安定した経営基盤の確立

・各種事業目標利用実績の確保は通所以外予算を達成した
　特養：95.2%（目標95%）　短期：99.9%（100%）　通所：80.1%(85%）　認知症対応型通所：83.0%（80%）
・毎月の経営会議（第4月曜）で事業別動向を確認し、事業管理者の経営視点を高めた
・各種加算の取得　⇒特養および短期入所の看護体制加算を5月より取得した。
・適正配置への取り組みは、高齢施設長会で泉・連雀をモデルに施設長間で共有したが
　取り組みまでは至らず、次年度以降への課題とした
・新システム導入を契機としたレスペーパーへの取り組み　⇒利用者ケースファイリングと申し送り削減
・年度後半から、Ipad、プロジェクターを利用した会議を開催した

5 施設整備と環境整備

・空調更新工事2021年度へ延期。動作不良の冷温水発生機修理したが改善することができなった（府中市主導）
・府中市主催の福祉避難所検討会開催されたが具体的な動きにつながらなかった
・LED化（2・3F）実施。残りを次年度更新予定とすること
・ご家族と憩いのスペース設置できず次年度課題に繰り越した
・2月下旬から新型コロナ感染予防の取組　3密回避、特養：家族の面会制限、通所・短期：利用自粛依頼等